

## 『男女共同参画に関する市民意識調査報告書』について

## 男女共同参画審議会委員の意見・感想等まとめ

## 1. 男女平等に対する意識について（問1、問2/P22～P34）

感想・意見	2次プランに期待すること・アイデア
<p>「男性優遇」の意識が低下していることはよいが、依然として女性に不公平感があることも事実。長年にわたって社会にしみ込んだ意識を改革することには困難さを感じるが、啓発活動を根気よく継続していく。</p>	<p>学校教育の現場では、女子（女性）の方が、個性や能力をのびのびと発揮し、男子以上に活躍している姿を目にすることが少なくない。<u>これまでの教育効果なのか若者世代を中心に意識改革は進みつつある。学校教育、家庭教育そして社会全体で意識改革を応援したい。</u></p>
<p>家庭生活上で、20代男性が「女性の方が優遇されている」が多いが、20代女性との意識の違いは何か？教育の場においても。政治の場や社会全体の男女の意識の違いが大きい</p>	<p>まちづくりや市の方針決定の場に女性の参画を促す。 人材発掘・・・資格や特技のある人が地域貢献できるシステムづくり</p>
<p>全ての分野で「男性が女性より優遇されている」との女性の回答は理解できる。 家庭生活の場では男女間で大きな意識の差があり、70代女性で「男性優遇」と回答した割合が77.8%と高いのに驚きであった。 学校教育では男・女ともに「平等である」と回答が80%近くなったのは大変良いことである。</p>	<p>—</p>
<p>社会全体が多く場で男性優位を感じていることがよくわかった。そして、その理由は社会通念・習慣・しきたりからと考える人が多いことも納得できる。それをすぐに変えていくことは簡単ではないだろう。ただ、学校教育の場での男女平等を感じる人が多いのは成果の一つだと思う。</p>	<p><u>社会的に女性が活躍している姿を具体的に多く目にとると、意識も少しずつ変わっていくのではないか。</u> 男女平等という意識を学校教育の場で充分育てていくことは今後必要だと思う。</p>
<p>男女平等に対する意識は、学校教育の場以外は男性の方が優遇されているとの結果が出ている。（女性の方が強く思っている）</p>	<p>男女に関係なく、とびらを開いていくこと。</p>
<p>学校教育の場と職場では、近年男女平等だと感じます。同じ教育、研修を受けるからだと思うし、仕事も男女関係なく働けるようになってきました。</p>	<p>社会通念、慣習、しきたり…など、古い考え、古い慣習の方々が少しずつ減少していけば（年をとったり、亡くなったり）変わっていくのでは…？</p>
<p>男女共に男性優位の意識に変化が現れ、学校教育の場ではほぼ男女平等の意見。 しかし平成24年リサーチとの比較では「政治の場」「社会全体等」「男性優遇」の意識が若干増加しており、今後の対応を必要とする。</p>	<p>「男女平等」は基本原則であり、人口減少で企業・自治体の存続が危惧される状況下、住民意識・企業経営者等の考え方を<u>「女性=戦力」をしっかりと、根本より醸成させる。</u></p>

<p>社会の中の制度は平等であるが、習慣、意識が平等でないと感じるのはその人（個人）の問題でもある。</p> <p>社会通念は一度には変わらず、時間がかかると思う。そのため啓蒙活動は必要と考える。</p>	—
<p>まだまだ平等とはいかない事がよくわかるポイントである。</p>	—
<p>私も50代の女性の平均的な回答でした。</p> <p>世代、女性としてイメージ的にインプットされていると自覚しました。また、若い世代には新しい感覚が進んでいることを実感しました。</p> <p>また、20代の男性は平等あるいは女性の方が守られている意識が現れ、男女共同参画の成果が現れてきたのではないのでしょうか。</p>	<p>看護師、保育士において近年大きく変化してきた。地道な働きかけが必要に思う。</p> <p>男女共同参画は広範囲に及ぶため、国・県・市による実践が必要かと思う。</p>
<p>男女平等と意識する項目の中で、現在一番平等と思われる項目は「教育の場」である。</p> <p>3月まで勤めていた者にとってはうれしいアンケート結果である。性的区別はあって仕方がないことであるが、男女混合名簿など常に男女性差が無いよう平等を考えながら勤めて来た成果であると思う。</p> <p>低いのは「社会通念、慣習、しきたり」が根強い現実がある。若い人達は平等の意識が多くあるが、60代の女性は男性優遇と感じている割合が多い。家庭、職場、姑、上司等に仕えて不満が多い年代と感じていると思う。</p>	—
<p>社会通念…政治、社会全体の傾向が明らかに他の設問に比べ、男性優遇の傾向が著しい。</p> <p>くくりが大きいので、どこが平等でないのか明確でない。</p>	<p>具体案等はありませんが、不平等である事柄を明確にするという作業から始めても良いと思える。</p>
<p>平等々と世の中で言われていますが、男女平等でなく人間平等が望ましいと思います。</p>	<p>昔から男性しか出来ない事、女性しか出来ない事、その上で協力し合うことが大事。</p>
<p>「社会通念・慣習・しきたり」、「政治の場」がまだまだ平等ではないことがわかり（P22）、全国各地の状況と同様だと思いました。</p>	<p>地域での男女共同参画を進めることで「社会通念・慣習・しきたり」は変化していくのではと思います。</p>

## 2. 家庭生活・結婚・家庭観に対する意識について（問3～問5/P35～P72）

感想・意見	2次プランに期待すること・アイデア
男女平等の意識が高まる中、どのような生き方をするかは人それぞれの自由。事情があつて生涯独身であったり、結婚しても子に恵まれない夫婦もいる。このことを踏まえた上で、後悔しない生涯設計をする能力を高めたい。	人間も動物の仲間である以上、何か特別な事情や考え方がない限り、子孫を残そうとするのはごく自然なことである。
介護や育児は男女が分担するのが理想であるが、実際には家事・育児の負担は女性に多いのが現状。	PTA 活動の中で、 <u>啓発的な講演・学習会</u> <u>父親になる前に親学習の場をつくる。</u>
女性 <sup>1</sup> は家庭を守るべき…そう思わないが68.6% 女性 <sup>2</sup> が家事・育児もすべき…そう思わないが78.4% 家庭育児に関し、男性は意識の改革が必要。 若い20～30代で結婚しなくてもよいとの回答が8割を超す事は将来の日本が不安。 子どもを持つ必要がないと回答する若者の多さにビックリ。	—
<ul style="list-style-type: none"> <li>・女性の社会進出により、子育て観・家庭観の意識も変わってきている。ただ、今でも女性は家庭を守るべきと考える人が全体で3割あるのに驚く。</li> <li>・子育ては女性の役割だとは思わないが、母親しかできないことは大事にしたい。</li> <li>・子どもの有無、離婚問題は少子化問題にもつながるのではないか。</li> <li>・家庭での役割について、理想と現実が違うのは、男性の意識によるものもあるのではないか。</li> </ul>	<u>男性の意識改革が大事ではないか。家庭生活もが</u> <u>んばっている男性を紹介し、アピールしてはどうか。</u>
現状は主に女性が担当し、男性は手伝う、理想は男女同じ程度に。	理想に近づきたい。
結婚や子供をもつもたない…等は自由だと思う。	家庭において、仕事も家事も育児もと、女性に負担が多いが、女性は有能だからだと思います。例えば法事など、何かの集まりでも、男性は何の役にも立たない。不公平だが仕方ないと思います。
家庭における男女の役割分担に対し、男性の意識に大きな変化、家事・育児も公平に分担すべし の考え、結婚に対する女性の意識が「個人の自由」 との考え…少子化に結び付く考えであり、家庭を 持つことにより幸福・充実…意識変化を促進する	家庭は男女共同の場であり、子供は地域の将来性 にも大きな影響を及ぼす、なくてはならない存在 …若い世代の自覚を促す。 未婚者と既婚者の交流の場を設ける。

ことも必要である。	
—	<u>既に共働きでなければ成立しない時代を迎えている。今時、女性が仕事をもつもたないは、他市ではほとんど議論にも上らない。もっと女性は働くことがあたりまえという発想が必要と思う。</u>
高年齢の方々の育ってきた頃の教育、社会的同調のあらわれであるように思う。	—
世代によって大きくとらえ方が変化しているように思います。結婚については必ずしもするものではなく、個人尊重の風潮が強くなってきたように思います。 昔のような大家族が減り、核家族があたりまえ、お互い干渉しないことが円満なような風潮さえあるような気がします。	人口減少が続く中、瑞浪市は名古屋への通勤圏でもあるので、若い方の子育てしやすい環境づくりを行い、住みよい町づくりを希望する。 <u>若い方の就職にも力を入れてほしい。</u>
男性は仕事優先、女性は育児、子育て、介護の慣習やしきたりが根強く、地域(小村)がらもあるのではないかと思う。しかし、仕事も育児も家事も平等に思う男性が増えてきている。(特に若い世代)また、女性が働かなくては生活のゆとりがなく、女性の負担はとても大きくなってしまふ。(共働き)男性の協力がなければ結婚に対する夢がなくなり、子どもを産み育てる不安で将来が見えてこない。女性の不安、不満を少しでも解消しなくては、結婚に対して夢がなくなってしまう。(少子化・結婚をしない)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ <u>育児や介護に伴うサービスの充実</u></li> <li>・ <u>男性意識の改善</u></li> <li>・ <u>学童保育の無料化</u></li> </ul>
家庭生活・結婚・家庭観に対する男女の共同参画に対する意識は、平等であるべきとの傾向になってきているのは近年の状況からうなずける。	現行通りで良いと思える。
70代の女性としては、家庭を守る、こうあるべくとは思わない。 共働きで頑張れる環境でありたい。	男性の協力と理解を得る。 社会的女性の立場で活躍出来る人は頑張っしてほしい。
「女性が仕事を持つのはよいが、家事・育児も女性がすべきである」(P36)について、男性の「そう思う」、「どちらかと言えばそう思う」が高い数値となっているので、家事・育児といったケア労働への男性の参画が重要なポイントとなってくるのではと思いました。	ケア労働に対する意識は、世代間ギャップがあるので、世代を超えて理解を深めることが重要かと思っています。

## 3. 生活の中での優先度について（問6～問8/P73～P76）

感想・意見	2次プランに期待すること・アイデア
仕事と家庭の両立を図れるように、制度や職場環境を整えることは、これまで以上に大切である。どのようなバランスで生きていくかについても人それぞれの考え方である。ある時期においては仕事の重点が男性にかかることもあれば、その逆の場合もある。そんな時こそ男女が共に助け合い、困難な時期を切り抜けることが大事。	国の働き方改革と合わせて、本市においても <u>一般企業への働き掛けを強力に進めていく</u> 。働きやすい環境の整備に努力する。
職場の環境づくりが大切である。	<u>事業者などへの働きかけが必要</u> 地域で支える場をつくる。
年間労働時間の短縮、育児・介護休業等休暇の取りやすい職場の環境づくりに対し企業経営者、特に中小企業の意識改革が必要。	—
<p>・希望は仕事優先ではないのに仕事優先が現実である。これは社会のしくみ全体の問題が大きい。個人の意識の問題というより社会全体の意識の問題だと思う。</p> <p>・「男女が共に両立を…」は本人たちの意識と社会的フォローと両方が必要だと思う。</p>	<p>・仕事を優先にせざるを得ない…ということがないよう生活の安定を図ることができるよう施策が必要である。</p> <p>・女性も仕事が十分できるように…という考え方ではなく、どうしても省くことのできない家庭のことを男女共働で…と考えたらどうだろう。</p>
年間労働時間を短縮することや、休暇の取りやすい職場環境づくり	仕事する時間を家庭の時間へ
男性でも、家事・育児が得意な人もいますが、結局は仕事しか出来ない。なぜなら仕事が一番楽だから。	よって女性に仕事+家事+育児がいきますが、男性には両立は無理。 男性が仕事で稼ぐぐらいしか活躍出来ないと思います。
仕事と家庭の両立は、個人・家庭の努力だけで達成出来ない状況。柔軟な勤務形態の導入が急がれており、事業者サイドの意識改革が求められる。	<u>女性の社会進出を促すことが重要であり、子育てへの各支援策を推進することがポイントである。</u> <u>IT化・AI化が進行する状況下、女性の戦力化を見据えた勤務形態の構築が急務である。</u>
その家庭の問題だが、いまだ女性が家事という発想はないと思う。	—
—	仕事と生活は、結婚する、子どもができるその状態により違いもあると思われるので続けられる環境をみんなで作っていく事 そうしやすい場作りをする事が大切と思われる。 (シニアの活用、支援センターを気軽に使えるシステム作り)

希望と現状の男女の違いがあらわれて複雑な夫婦の会話まで聞こえてくるようである。養育中においては、やはり子供優先であり子育て後半は社会貢献として仕事に対して与えられた責任を果たしたいと思います。	弱者に優しい町であってほしい。 子育てにおいては、教育の大切さを理解して未来を見据えた優先順位であってほしい。
仕事と家庭を両立するためには「年間労働時間を短縮することや休暇の取りやすい職場環境づくり」が必要と考えるが、現実には他の人に迷惑がかかる、待たなしの時など取りづらい面もある。公務員（自分）は、制度としては大変充実しているが、時間外勤務等、仕事量を減らす（人を雇う）対策としていかななくては両立はむずかしいと思う。	—
・調査結果の要約通りと感ずる。 ・仕事と家庭の両立に対する施策は現状行われている方向が支持されている。	現行通りで良いと思える。
普通に生活が出来、健康であること。 仕事、楽しみごと、近所つき合い。	収入がなければ生活が出来ない。 自分にあう職業につけれること。
女性が働き続けるために必要な社会支援（P83～84）について、アンケート結果を基にして企業への情報提供を推進してはと思いました。	<u>企業側への情報提供を推進することを期待します。</u>

## 4. 女性の働き方について（問9～問13/P77～P84）

感想・意見	2次プランに期待すること・アイデア
人手不足だからではなく、働く意欲と能力のある人は、男女・年齢を問わずに働ける社会であることは大切です。子育て・介護等で一時就労を縦断しても不利にならないように就労支援する。	女性の犠牲を前提とした意識を男女共に改めるように啓発活動を行う。法令に基づいて企業側に男女平等な就労を指導する。
親になる前の教育が必要	・両親学級？（出産前） ・地域での子育て支援の充実が必要 ・事業所などへの働きかけ ・市役所など公的職場で率先した働き方
・「結婚・出産にかかわらず、ずっと職業を持ち続ける方がよい」は理想論であるが「子供ができたら職業をやめ、大きくなったら再び職業を持つ方がよい」が現実的なのではないか。 ・男性の家事・育児への参加、保育所・学童保育など子育て支援の充実が大切である。	—

<p>・女性が働くことに対し「よし」とした意識が多くなってきたことはよいことだと思う。(社会全体がそれを認めている)</p> <p>・女性が働き続けるためには男女共に働き方の見直しが一番必要だと思う。それとともに周りの理解、協力が絶対に必要である。</p>	<p>男性の家事・育児・介護への参加実績を社会に知らせる男性の家事等への参加に対する補助をする。</p>
<p>「男性の家事・育児への参加推進」</p> <p>「保育所や学童保育など子育て支援の充実」</p>	<p>男性は仕事・家庭・育児へ</p>
<p>女性も仕事をもって一生働くことが理想</p>	<p>だからと言って男性は家事・育児など同時にこなすことも出来ないから女性のお給料等、見直すべき</p>
<p>女性は結婚・出産にかかわらず、職業を持ち続ける方が良いとの…男性が増加。</p> <p>しかし現実には、男性の方が育児休暇が取りにくいとの認識。</p> <p>家庭内での協力体制の整備が大きな要因であり、さらに行政・事業者側の支援が急務である。</p>	<p>男性の育児休暇の促進も必要と考えられるが、幼児園の整備強化、女性のワーキングタイムの短縮促進を図る。</p> <p>さらに、仕事の内容によっては、フレックスタイム制、自宅勤務を許可する等、IT・AI化の進行により「成果主義」に移行させる。</p>
<p>女性の方がよく働くという経営者が増えている。</p> <p>問題は「働きたくない」女性自身も多いということ。</p>	<p>—</p>
<p>私はずーと保育士として働き続けてきました。それについては主人や両親など家庭の協力が一番です。核家族になった現在ではそれもなかなかむずかしい事かもしれませんが、私はどんどん若い人たち(家はもちろん)に協力してあげたい。</p>	<p>—</p>
<p>一番に取り組んでほしい課題であると思う。男女共同参画の中心部分であり政策に期待していません。</p>	<p>個人差がある中で、人材の活かし方、無駄をはぶいた合理的な働き方、スマートな職場の意識改革が必要に思う。</p>
<p>女性が働くことが出来る環境ではないと、出産した後に仕事をしながら子どもを育てることは大変肉体的にも精神的にもむずかしいと思う。労働人口が減少している日本の現状で女性がいかに働きやすい環境にするかは早急の課題であるが、解決策は、国・県・市とまたがり大変むずかしい。家庭・地域の協力が不可欠である。(男性の意識改革等)</p>	<p>—</p>
<p>要約の通りと思います。</p> <p>ただ、職種により男女比率が違っているので、ひとくくりで良いのかとも感じます。</p>	<p>啓発活動しかないのでは？</p>
<p>親の介護、自分の健康管理</p>	<p>—</p>

社会の利用出来ることを使い働く。	
「女性が職業を持つことについて、あなたはどのように思いますか。」(P77)の経年比較をみると、「結婚・出産にかかわらず、ずっと職業を持ち続ける方がよい」の割合が高くなっており、着実に社会の変化と呼応していることがわかりました。	「 <u>結婚・出産にかかわらず、ずっと職業を持ち続ける方がよい</u> 」の割合が高くなっており、 <u>職業を持ち続けることができるような具体的な支援を盛り込むことを期待します。</u>

## 5. 地域活動・社会活動への参加について（問14～問17/P85～P92）

感想・意見	2次プランに期待すること・アイデア
年金の支給開始年齢が65歳に引き上げられ、フルタイムで働かなければ生活が成り立たない時代がやってきた。日常生活に追われる中、地域活動に積極的になれない人は男女共に増えるのではないかと思う。	<u>地域活動への参加率の低さを重大な問題であると受け止めることから始める。「男女平等」とか「女性の活躍」という言葉だけでは、地域活動への参加の必然性は理解されないように思う。</u>
地域活動に参加したい人がわりと多いが、参加しているものがないが多いのが現実 地域への女性参画が少ないのは意識の低さか	女性の能力を発掘する機会をもつ
・当委員会のように女性の参画を積極的に進めるよう更なる企画が必要である。 ・女性の地位向上を計る。 ・女性側より参画の意識を高めてほしい。 ・地域の行事においては子供会として参加している。	—
地域社会活動に参加できない（しない）のは関心がないというのが本音のように思う。（本当にやりたいことは忙しくてもやれるのでは）やはり、社会的つながりが希薄になってきている。女性の参画問題は女性自身の意識の問題もあるのではないか。	<u>地域活動、社会活動に女性が参加しやすい地盤を作るのが大切だと思う。女性ならでは…を生かせる活動を作ってはどうか。</u>
社会活動への参加の支障となること 仕事が忙しい。	機会があれば活動したい
女性は社会性も非社会性も両方もっているのでスムーズに出来る人も多い。	男性がどんどん地域活動、社会活動に参加するようになれば、世の中変わると思います。
地域・社会活動への参加意欲の低下、女性の半数が社会活動に不参加…。要因としては多忙な仕事、女性では家事・育児・介護の負担が大きな要因となっており、官民よりの女性へのサポートが必要な状況である。	<u>女性の社会活動への不参加、社会奉仕活動の減少は、仕事の多忙さ、家事・育児・介護等の負担の増加により困難な点が多く、出来る限りサポートし、社会活動への参加を促進する。</u>
思ったより意識が低いのにびっくりした。 男性の方が高いのは、町内会の役員によるもので	ことわざにもあるように、地域あってこそおたがいさまを合言葉に無理のない助け合い、地域のコ

昔からの男女差が顕著に出ている。 ボランティアとは又少し入り口が違うかなあとも思う。	コミュニケーションの場があると良い。
社会活動の参加について半数が参加していない。 参加していても「自治会や町内会等の地域自治活動」で、ある程度、参加しなくてはならないような活動が中心で、自主的なボランティア活動が少ないように思う。 「仕事が忙しい。関心がない。家事・育児・介護が忙しい」の回答があり、体と心にゆとりが無いと関心があってもやれない事情があると思った。	地域活動⇒託児所を一緒に開設してはどうか
参加したい人が50%近くあるという数字は多いと感じる 参加できる事項があればより参加者が増加していくのではないかと。	区長等の役員も女性が増えてよいと思う。(より細やかな目配りが出来るのでは?)
ついて回りの行動は参加し易いが、役が来ることに抵抗がある。	—
「地域活動・社会活動への参加について」(P85)の経年比較をみると、関心度が低くなっている状況がみてとれました。	どのような地域活動や社会活動があるのかについての情報提供を実施することは、いかかでしょうか。

## 6. 介護について (問18/P93)

感想・意見	2次プランに期待すること・アイデア
自宅で子や孫に介護してもらえることは幸せと思うが、介護離職ゼロも大事なこと。	介護施設と人材の質的向上が大切。子育ても介護もしやすいまち「幸せ実感都市」の推進。 <u>要介護に至らないように、高齢者世帯への生活支援の充実。</u> <u>介護されなくてもすむように健康管理に努力する。</u>
介護については「男女ともにすべき」がどんどんふえていくと思う。	—
・「男性も女性も、ともに介護をすべきだ」59.3%で最も高くなったことは理解できる。「男女に関わらず、子が親の介護をすべきである」23.6%であるが、仕事面、経済面を考える時、まず女性(妻)に介護をお願いしてしまうのではないかと。	—
男性も女性もともに介護すべきと考える人が多いのに現実では女性が多いのは、女性がすべきという社会通念があるだけでなく、仕事中心の男性社会のためではないか。	介護は社会全体で支える体制の充実が必要である。

「男性も女性も、ともに介護をすべきだ」	介護を必要とする家庭に社会が支援していく。
男性は思いやりや相手の気持ちを察する等出来ないから、介護無理でしょうね。	介護は家族ではなく、社会（施設等）でプロにまかせる。 介護職の給料を見直すべき。
介護の理想は「男女共に」…であるが、アンケート結果上は「主に女性が担当」との回答、理想と現実の開きがあり、女性の負担軽減のためにも有効なサポートが官民サイドより必要である。	介護をする側の負担は、年々増加の傾向が強く「女性が介護の主たる担当」から特養～サービス…介護される側にマッチした形態に出来る限り移行させ、女性の介護からの開放を促進する。
介護保険をもっと利用し、女性が見る…男性が見る…ということよりも、自分達が介護で共倒れにならないように工夫すべき 特に介護はきれいごとではなくお金もかかることをもっとシビアに考えるほうが良いと思う。	—
・みんなで協力しあうべき 男が…女が…ではなく、できる事で協力し合う事が大切。 ・いろいろな施設も大いに利用し、一人や家族だけがかかえこまない事を大切にしていきたい。	—
大きな課題である。 介護施設があっても、スタッフがいない現状となると、在宅となった時には性別なく介護にあたるしかないと思う。	<u>予防に力を入れ、健康な高齢者で過ごすための健康教室を増やす。</u>
「男性も女性も共に介護をすべき」と60%近くが思っている。しかし、現実は大半が女性にまかされてしまっているのが現実である。男性の協力（お互いの協）がなければ、介護する人も心と体に負担がかかり介護される側も悲しい思いをすることから、家族で役割分担をして笑顔のある介護になるようにと思う。	・ デイサービスや介護施設の充実 ・ ボランティアの募集
・ 男女平等に介護すべきという意識が高い。 ・ 上記と子供が親の介護をすべきという設問が同列なのかよく理解できない。（男女との関係が）	—
ほとんど女性が主だと思います。 なかには男性が面倒を見ている方もありますが、そういう処に女性が得意と思う気遣いがある。	—
回答「男女に関わらず、子が親の介護をすべきである」の回答割合が、経年比較でみると高くなってきています。	介護では、社会的サービスを活用する方法などの周知が必要かと思いました。

## 7. 人権について（問 19～問 22／P95～P104）

感想・意見	2次プランに期待すること・アイデア
<p>表現の自由を盾に、セクハラではないかと思われることが、社会には少なくないと思う。</p> <p>自分の身近ではDVについて認知するようなことはほとんどない。児童や高齢者への虐待同様、表面化しにくい問題であり、他社が介入しにくい問題でもある。</p>	<p>人権感覚を鋭くする啓発活動。セクハラやDVなど人権侵害を受けた側が訴え出やすいように、法令や制度の整備。</p> <p>性の商品化を許さない社会。</p> <p>心の教育の充実。</p>
—	<p>・ <u>教育の場で力を入れてほしい</u></p> <p>・ <u>職場や地域でこういったことがセクハラにあたるかなどの講演会・学習の場をもつ</u></p>
<p>・ 「男は仕事、女は家庭」という固定的な役割分担が、反対に「男は家庭、女は仕事」になった時、女性の考え方はどうか？</p> <p>・ 職場におけるセクシャル・ハラスメント、夫婦間やパートナー間のDVについては関心が高まってきていると思うが、まだまだ人種に対する意識が低い。</p> <p>・ 人権に対する啓発活動の更なる充実を計る。</p>	—
<p>・ 男は仕事…と固定的な役割分担の回答が H14 年からほぼ変わらず多い。若い世代もそう考えるのだろうか。</p> <p>・ 社会的問題となっているセクハラや男女間の暴力の問題が瑞浪市でも少なからずあることがよくわかった。</p>	<u>相談窓口の充実が必要だと思う。</u>
「男は仕事、女は家庭」といわれる固定的な役割分担	男女平等 平等な役割分担
<p>「男は仕事、女は家庭」という従前からの固定的な役割分担の傾向が強い。セクシャル・ハラスメントについて、減少傾向であるが、身近な体験者も存在している。男女間に於ける暴力防止には家庭内教育・学校教育が大きなポイントであり「人権」の重要性を社会全体が共有することが重要となる。</p>	<p><u>従前からの固定的な「男は仕事、女は家庭」の概念を変えるべき、地域単位での「ディスカッション」の実施促進。</u></p> <p>男女間の暴力防止には、家庭内教育・学校教育が重要なポイントであり、それぞれしっかりとした教育システムへのサポートを推進する。</p>
<p>やっている人は自分で気づいていないことがほとんどである。</p> <p>「自分だけはちがう」と思っている。もっとNGであることをPRすべきと思う</p>	—

現状ではまだまだ「男は仕事、女は家庭」という見方、考え方はあるが、本来の男と女の人的機能も伴うと思う。完全平等とはなかなかできないかもしれないが、男女共に安心して仕事に集中し、子育てに集中し、介護に集中して、その時々をしっかりと生活できる環境が必要に思う。	市民みんなで、その場に合った力を出し合いになっていく必要があるのではないか…。
人権侵害がおこってからでは遅い！ おこってから対処ではなく、おこらないために、教育・広報に取り組んで欲しい。	1人1人考え方も生活も違う。 1人1人を尊重する意識を育てたい。
「男は仕事、女は家庭」と言われる固定的な役割分担が57.9%と高い。男女差の収入、女性の育児休暇等、社会が変わらなければ人権は変わっていかないと思う。 「セクシャル・ハラスメント」については「聞いたことがない」が12.2%と多いことに驚いた。	<u>「セクシャル・ハラスメント、DV」気軽に相談できる窓口（場）をつくったり、広報で広める。</u>
感情的になり、他人を傷付けないことに心掛ける。絶対、暴力・暴言は許されない。	—
「あなたの夫や妻、恋人などに『大声で怒鳴る』ことをされたこと、またはしたことがありますか」（P98）では、男性の38.3%が「したことがある」と回答していますが、年代別のデータではありませんでしょうか。	若年世代は、デートDV等について、学校で学ぶ機会が増えていますが、その効果があったかどうか、知りたいと思いました。

## 8. 性的マイノリティについて（問23～問25/P105～107）

感想・意見	2次プランに期待すること・アイデア
性的マイノリティをあえて差別する気持ちはないが、このことについて真に理解することは私にとって難しい。	<u>性的マイノリティについて理解を深める話を聞いてみたい。</u>
性的マイノリティの方々の人権を守ることはとても大切と思う。	・ <u>「アンケートの男・女に○をつける」をやめる。</u> <u>（まず市から）</u> ・ <u>多目的トイレを増やす</u>
ある記念講演会で性的マイノリティ（LGBT）の話聞いた。講師本人がレズピアンであることをオープンにして積極的に発信をされている。その中で、LGBTは人口の7.6%、13人に1人の割合だと聞いて少々ビックリ。 お茶の水女子大では戸籍上男性でも自身の性別が女性だと認識しているトランスジェンダーの学生を2020年4月から受け入れると発表した。 性的マイノリティの方々の人権を守る啓発や施	—

策がますます必要と思われる。	
性的マイノリティに対する理解が多くあることはすばらしいことだと思う。	—
性的マイノリティの方々の人権を守る啓発が必要だと思う。	性的マイノリティの方々の人権
男同士、女同士の結婚を認めて欲しい。	—
「性的マイノリティ」50%以上が言葉を認知、大半の回答者は性別に悩んだ事はない状況、半数の回答者が人権を守る啓発や施策が必要との意見であり、今後の課題が多い。	「性的マイノリティ」の方々は、とかく色眼鏡で見られがちと共に、社会全体からも少数派であり、行政に於いても提言等を探択されにくい立場であるが国際的にも先進国では社会的立場を確立しつつもあり、今後の課題として対応策を推進する。
ある調査では16人に1人がLGBTとの報告もあり日頃の無意識の言動についてもひとつひとつ注意が必要かと思うこの頃です。 情報が必要かと思えます。	<u>情報がほしい。</u>
「性的マイノリティ」について、この言葉自体、知識として理解していない方が多いのではないかと思う(62.9%) 現実的に多くなってきているので、学校での性教育に取り入れて人権を守る啓発が必要と思う。	<u>学校での人権教育、性教育を実施する。</u>
知らない	—
「性的マイノリティ」に関するデータについても、年代別のデータがわかればと思いました。	<u>年代によって、周知の必要があるかと思いました。</u>

## 9. 防災の分野について（問26～問27/P108～P110）

感想・意見	2次プランに期待すること・アイデア
瑞浪市は災害の少ない地域ですが、あらゆる場合を想定して、性別や年齢に関係なく、弱者への配慮は大切にしたい。	公共施設、インフラなどの強靱化をさらに進める。いざというときのルールや指揮、命令システムをしっかり構築し、訓練を通して周知しておく。
防災については性別に配慮がいると思う。	防災会議、計画の場に男女が参画する。
災害時において（トイレ・更衣室）性別に配慮はやはりプライバシーの確保であろう。弱者（乳幼児・高齢者・障がい者）へのサポート体制の強化。	—
非常時における性別に配慮した対応は、男女差別の問題だけでなく生命を守る意味からも必要だと思う。必要ないという意見があることが不思議である。	防災の体制作りの段階から女性が参加するべきである。
性別に配慮した対応が必要 「避難所の設備」	避難所の設備 (男女別のトイレ、更衣室、洗濯干場等)

—	小さな子どもでお年寄り、弱者に優しい防災対策を！
「防災時の対策」の必要性を90%の人が回答。男女共に「避難所の設備」「被災者対応」「救援医療体制」を多くの人が回答し90%を超える状況。項目ごとに再構築することが課題である。	自助・共助の重要性を各地にて浸透を図り、男女共同参画の視点に立つ防災体制の確立が急務である。防災リーダー養成、女性の防災士資格取得を促進する。
—	男女を問わず、災害に対し、意識したり、身近にできる事から用意したり、日頃から気にしている事が大切。
分野により性別による特徴が現れやすいかもしれないが、男女関係なくその場にいたものが出てくることを惜しまず行動していく事が大切だと思う。	地道な活動・防災教室・訓練
「性別に配慮する必要。どちらかといえば必要」90%が対応が必要と答えていて、将来来ると思われる大きな地震や災害事に対応できるよう、要望の多い避難所の設備（トイレ、更衣室、洗濯物等）をいつ起きても大丈夫なように市の体制として整えることが急務。安心して生活できる瑞浪市！	—
大事なことで実際に体験した時、冷静に行動が出来るかが心配です。	—
災害関連死を起こさないためにも、避難所のあり方に関心が集まっていることがわかりました。	非難所体験セミナー等を実施しては、いかかでしょうか。

## 10. 男女共同参画社会に関する施策について（問28/P111～P112）

感想・意見	2次プランに期待すること・アイデア
最後の5行に書かれていることに尽きる。	そのために粘りの強い意識改革と実行性のある行動をとる。
—	学習する機会を増やす。 (学校・職場・地域で)
・女性の就業・再就職の支援、働く女性の支援が必要である。 ・男女平等には「男は仕事、女は家庭」という古き慣習は見直し、男女共同参画により、相互理解や協力について考えるべきだ。	—
・仕事と生活の調和の推進という意見が多い。これは社会的努力により進めていけるのではないか。 ・慣習の見直し（社会通念の切りかえ）が難しいと思う。	—

「仕事と生活の調和の推進」 「女性の職業再就職の支援、働く女性への支援」	「男女平等を進めるための慣習などの見直し」 「仕事と生活の調和の推進」	仕事と生活の調和の推進 (家庭・地域・学校など)
教育・研修でこれからの若い人達に徹底的に教えるべき		男性でも、仕事も家事も育児も介護も出来る素敵な人を育てていかななくては。
男女共同参画社会をより円滑に実現するには「仕事と家庭の調和」「慣習などの見直し」「相互理解と協力についての学習」がポイントとなる。働く女性へのサポート体制の強化が急務であり、官民の総力を発揮することが重要。		あらゆる分野に於ける女性の活躍を官民の総力によりサポートする。生涯に於いて性差に応じた健康支援を推進する。 男女共同参画社会実現へのシステム整備をより強力に前進させる。(ワーク・ライフ・バランスの実現)
地域・職場・学校・行政 一体化した軸が必要と考える。 (連携した施策ができるとういと思う)		—
—		女性には、どちらかといえば、男性より子育てという時の場面に接している事が大きいので、 <u>仕事に復帰する時、再就職する時に、大きなエネルギーを使うと思われるので、その支援を十分に必要があると思われる。</u>
男女共同参画プランの柱でもある <u>尊重</u> が大切に思う。個人の都合、解釈による権利の主張にはならないために、この先を見据えた施策であってほしい。		・ 男性の料理教室 ・ 趣味の講座
・ 仕事と生活の調和 ・ 男女平等を進めるための慣習 ・ 女性の就業⇒就職の支援、働く女性への支援	男女	力を入れるべき対策
話し合いが出来ること有意義 色々な意見を聞きたい。でも後期高齢の年では難しい。(笑)		—
「働く」「暮らす」「ケア」がキーワードになるかと思いました。		市民が関心をもっているテーマでの講演会が必要かと思いました。

## 11. その他

感想・意見	2次プランに期待すること・アイデア
「女性のこと」は「男性のこと」でもあるという考え方を大切にしたい。	—
・ 各機関・教育・個人等の努力により、男女共同参画に対する意識が高まってきていることはわ	・ 大きく変革させることを計画するのではなく、 <u>着実にすすめられるプランが必要だ</u> と思う。

<p>かった。</p> <p>・すべてが男女一緒ではなく、男性ならではの女性ならではの特性を尊重し、相手に対する思いやりと尊敬の念を忘れてはいけないと思う。</p>	<p>・男女共同参画の社会作りが弱者（子ども・老人・支援の必要な人）へのしわよせにならないように考えたい。</p>
<p>スエーデンは</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>離婚</li> <li>学童支援の施設の問題</li> <li>税金</li> </ul>	<p>①親 ②男 ③女 の関係の調和 バランス ④子</p>
<p>基本的にすべての平等は無理だと思う。</p>	<p>男性が女性並みにすべてに柔軟に対応出来るなら可能。</p> <p>→ 今の子供達なら出来そう。</p> <p>今のおじさんは無理でしょうね。</p>
<p>男女共同参画会議の中に、各方面学識経験者も大事ですが、若い方の意見も聞くチャンスがあると計画に反映するのではないかなーと思った。</p>	<p>—</p>
<p>企業に対しての改革ならば、わかりやすいが、大きな取り組み、及び、年数のかかる事だと思う。若い男性の正反対の意見にも注目したい。</p>	<p>子供たちの笑顔ひろがる瑞浪市</p>
<p>子どもは二人独立しています。仕事をしていたので、二人とも1年間育児休暇を取りました。（職場は私が初めての育児休暇だったため、とても取るのに勇気がいりました）1年後に1才になった息子を未満児で保育園に預けました。3世代同居をしていたものの家業が忙しく子どもをみてもらうことも出来ず、どうするか悩んだ末に保育園に預ける選択をしました。周囲の方から「小さな子がかわいそう」と言われ仕事を辞めようか悩みましたが、仕事を辞めずに40年近く働きました。育児と家庭・家事・仕事の両立は本当に大変で、何もかも女がやらなければならない時代で泣きながら仕事から帰って家事をしたことを思い出します。時代が少しずつ変わり、今は主人が食事も作ってくれたり、お風呂に水を入れてくれたりと、よく手伝ってくれます。長い年月で意識が少しずつ変容しました。急にはなかなか変わりませんが、少しでも住みやすい社会、瑞浪市になるよう応援していきたいと思っています。乱筆乱文で失礼します。</p>	
<p>男女共同参画社会の推進に対し、仕事と生活の調和の推進等々があります。働き方改革等制度の見直しはありますが、企業の中で女性の活躍している場が少ないと思えます。</p> <p>（例えば理系が少ない等）こういったところで、男女比率が均等になっていかないと改革が進まないと感じています。</p> <p>これには、教育等、長いスパンで考える必要があると今回感じました。行政とは遠大な物ですね。</p>	
<p>男女平等とは何を基準として望んで居るのか理解出来ないが、同様の仕事をしていて収入が男女に差があるのが不思議。</p>	<p>セクハラ・DV、世の中さわがせています。何でもこんな大ごとになっているのか、なくせるものならなくしたいですね。</p>
<p>自由記入では、さまざまなご意見がありました。</p>	<p>市民一人ひとりが、自分たちのプラン！とっていただけるよう、工夫ができればと思いました。</p>